

2025年1月26日（顕現後第3主日、C年）

牧師メッセージ

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」

（ルカによる福音書4:14-21）

司祭ヨセフ太田信三

イエスが洗礼を受けたとき、天が裂け、霊が鳩のように降りました。そしてイエスは霊に満たされ、神とともに歩み始めました。その歩みの目的について、今日の福音でイエスが朗読したイザヤ書によって明らかにされています。それは、「解放」「回復」「自由」をわたしたちにもたらすためです。「解放」という言葉は、「赦し」とも解釈できます。神さまから離れてしまうことが罪ならば、人が再び神と共にある命へと「回復」されることが「赦し」です。イエスの死と復活によって、私たちは赦され、神と共にある命へと回復されます。その命に与るなら、人は神に祝福された命を生きることになりますから、人はもはや自分自身の命を否定することや、互いを拒絶しあうことから「解放」され、互いの命を祝福しあう、まことに「自由」な命を得ることになります。イエスは私たちにその命をもたらすために、神によって遣わされ、神はそのためにイエスに油を注ぎ、霊により支えます。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」とイエスは言いました。イエスによってもたらされる命の回復は、「耳」から訪れるのです。「耳」を持たないなら、聖書のみ言葉を聴いても、神の語りかけも聴くことができません。しかし、「耳」を持つならば、あらゆる出来事を通して語られる神の言葉を私たちは聴くことができ、イエスによってもたらされた福音に与ることができます。「耳」を持つ者にイエスの言葉が響くとき、救いが実現する「今日」は訪れるのです。

イエスを見つめることでその「耳」は開かれます。今日の福音書の描写がそのことを表しています。読者の視線が、ガリラヤ地方からナザレという町へ、さらにその中の会堂、そしてイザヤの巻物を持つイエスの手元へとフォーカスしていくよう構成されているのです。そしてイエスがイザヤ書を朗読した後は、イエスに会堂中の人々の目が注がれます。このように、イエスの手元へ、口元へと目が向けられるとき、「耳」は開かれるのです。イエスを見つめるなら、様々な声や音に惑わされてしまう耳が、イエスの声を聴く「耳」に変えられます。その「耳」で聴くなら、イエスによる救いが実現する「今日」がわたしたちにも訪れます。わたしたちの目を、心をイエスに向け、「耳」を開いていただきましょう。